



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月14日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム
 コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役社長室長 (氏名) 古川原 英彦

TEL 0256-33-3987

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	38,890	2.2	818	1.1	885	3.2	548	0.0
29年3月期第3四半期	38,055	3.5	808	2.4	857	2.3	548	8.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 552百万円 (15.3%) 29年3月期第3四半期 652百万円 (14.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	55.72	
29年3月期第3四半期	55.75	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	16,650	6,610	39.7	671.55
29年3月期	14,444	6,176	42.8	627.41

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 6,610百万円 29年3月期 6,176百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		6.00		6.00	12.00
30年3月期		6.00			
30年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,500	5.1	1,040	13.6	1,090	9.8	600	23.1	60.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 株式会社カワサキ、除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	10,833,000 株	29年3月期	10,833,000 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	989,121 株	29年3月期	989,121 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	9,843,879 株	29年3月期3Q	9,843,879 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が改善し、個人消費も雇用所得環境の改善や株価の上昇などに伴う消費者マインドの持ち直しが見られるものの、北朝鮮情勢などの地政学的リスクの高まりや米国の政治情勢に関しては依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、税金や社会保険料などの増加に伴う可処分所得の伸び悩みや、若年層を中心に将来不安等を背景とした節約志向、ならびに同業他社や他業態との競合により経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは「美味しさ」と「低価格」で高い競争力を実現するため、「安全・安心」な食材の提供はもとより、スケールメリットを活かした大量仕入れや効果的な配送によるローコストオペレーションに取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は388億90百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益は8億18百万円（前年同期比1.1%増）、経常利益は8億85百万円（前年同期比3.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億48百万円（前年同期比0.0%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、競合店の新規出店等により競争が激化しているなか、精肉及びデパ（日配）部門の売上高は比較的好調に推移いたしました。しかしながら、相場変動が大きい青果、鮮魚部門につきましては、天候や水揚げ量の影響から伸び悩んだことで、既存店の売上高は前年同期に比べ、0.3%減少いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は172億64百万円（前年同期比0.4%減）、セグメント利益は4億56百万円（前年同期比5.4%増）となりました。

(業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、11月に長野県で2店舗目となる「業務スーパー稲里店」（長野県長野市）及び秋田県で4店舗目となる「業務スーパー秋田市民市場店」（秋田県秋田市）、ならびに12月に福島県で4店舗目となる「業務スーパー八山田店」（福島県郡山市）をオープンし、営業エリアの拡大を図ってまいりました。

また、業績不振店を中心に飲食店へのポスティング活動や折り込みチラシなど新規顧客の開拓を継続したことにより、既存店の売上高については前年同期に比べ、4.0%増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は117億32百万円（前年同期比7.4%増）、セグメント利益は3億8百万円（前年同期比12.4%増）となりました。

(弁当給食事業)

事業所向け宅配弁当につきましては、北海道地区において、同業他社から顧客の受け入れを行ったことにより、同地区における平日の平均販売食数は前年同期末に比べ、27.3%増加いたしました。

また、食材ならびに人件費コストの増加に伴い、販売価格の値上げ交渉も継続して行っており、売上高は前年同期を上回りました。

惣菜等の受託製造を行っている千葉工場につきましては、前期より始めた事業所向け宅配弁当「フレッシュランチ39」の製造及び販売につきましても食数は順調に増加しており、また、10月より受託製造量が大幅に増えたことにより、売上高は増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は56億97百万円（前年同期比3.1%増）、セグメント利益は2億96百万円（前年同期比7.7%増）となりました。

(食材宅配事業)

食材宅配事業につきましては、営業員を増員して配達コースを前年に比べて9コース増やすことで、お客様へのコンタクトの機会とサービス向上を心がけました。当社オリジナル商品の企画販売や、福祉施設などの法人向け食材販売にも注力しているものの、主力商品である「すまいるごはん」の食材セット販売は、新規顧客獲得に向けキャンペーンなどを行っておりますが販売数は前年を割り込みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は35億24百万円（前年同期比2.1%減）、セグメント利益は1億90百万円（前年同期比1.2%増）となりました。

(旅館、その他事業)

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、旅行会社が斡旋する宿泊及びバスツアーによる昼食利用は依然増加傾向を維持しておりますが、一般のお客様によるレストランや宿泊などの利用客は減少しました。

定食屋「米どころん」につきましては、健康志向の食材を使用した新メニューや、看板商品の開発を行ったことにより東京都内3店舗の売上高は増加し、経費面につきましても一部改善は見られたものの、依然として人件費と新店で取り入れたビュッフェ形式の原価管理が課題となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は6億71百万円(前年同期比0.6%減)、セグメント損失は83百万円(前年同期はセグメント損失89百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ22億5百万円増加し、166億50百万円となりました。これは主に、年末商戦に伴う売上増加による現金及び預金が9億20百万円、売掛金が2億77百万円増加したこと、及び商品が2億85百万円増加したこと、ならびに子会社を取得したことよりのれんが3億34百万円増加したことによるものです。負債合計は、前連結会計年度末に比べ17億71百万円増加し、100億39百万円となりました。これは主に、年末商戦の仕入増加により買掛金が11億7百万円増加したこと、及び短期借入金が14億20百万円増加したことによるものです。純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億34百万円増加し、66億10百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益5億48百万円及び剰余金の配当1億18百万円によるものです。この結果、自己資本比率は3.1ポイント低下し、39.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、前回発表(平成29年5月12日)の業績予想に概ね沿う形で推移しており、今後も業績に大きな影響を与える可能性のある要因がないと考えられるため、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,369,655	2,290,284
売掛金	971,533	1,249,056
商品	1,398,784	1,683,954
原材料及び貯蔵品	132,888	135,489
その他	522,299	700,077
貸倒引当金	△2,360	△3,376
流動資産合計	4,392,799	6,055,486
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,927,703	4,077,910
土地	2,977,760	3,004,080
その他（純額）	602,723	676,112
有形固定資産合計	7,508,187	7,758,103
無形固定資産		
のれん	5,652	340,523
その他	257,373	278,927
無形固定資産合計	263,025	619,451
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	114,233	114,913
その他	2,183,962	2,118,232
貸倒引当金	△17,507	△15,532
投資その他の資産合計	2,280,688	2,217,613
固定資産合計	10,051,902	10,595,168
資産合計	14,444,702	16,650,654
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,775,424	3,882,990
1年内償還予定の社債	800,000	800,000
短期借入金	586,727	2,007,210
未払法人税等	262,694	34,451
賞与引当金	218,989	84,014
その他	1,543,109	1,739,766
流動負債合計	6,186,945	8,548,432
固定負債		
長期借入金	430,174	157,560
リース債務	186,430	144,751
退職給付に係る負債	16,616	14,919
役員退職慰労引当金	440,800	136,700
資産除去債務	548,660	598,126
その他	458,937	439,498
固定負債合計	2,081,619	1,491,556
負債合計	8,268,564	10,039,988

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	5,628,563	6,058,955
自己株式	△751,653	△751,653
株主資本合計	6,045,402	6,475,793
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	117,204	126,877
退職給付に係る調整累計額	13,530	7,994
その他の包括利益累計額合計	130,735	134,872
純資産合計	6,176,137	6,610,666
負債純資産合計	14,444,702	16,650,654

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）
売上高	38,055,917	38,890,626
売上原価	28,575,791	29,149,153
売上総利益	9,480,125	9,741,472
販売費及び一般管理費	8,671,262	8,923,461
営業利益	808,863	818,011
営業外収益		
受取利息	32	14
受取配当金	9,017	9,012
受取家賃	13,450	15,350
その他	50,522	60,137
営業外収益合計	73,022	84,514
営業外費用		
支払利息	16,409	11,497
その他	7,758	5,685
営業外費用合計	24,167	17,182
経常利益	857,718	885,343
特別利益		
固定資産売却益	—	435
受取保険金	17,100	5,121
特別利益合計	17,100	5,556
特別損失		
固定資産売却損	—	8,920
減損損失	1,213	—
災害による損失	15,604	3,675
その他	1,644	4,448
特別損失合計	18,462	17,043
税金等調整前四半期純利益	856,356	873,856
法人税、住民税及び事業税	272,024	157,753
法人税等調整額	35,563	167,585
法人税等合計	307,587	325,338
四半期純利益	548,768	548,517
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	548,768	548,517

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）
四半期純利益	548,768	548,517
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	104,708	9,673
退職給付に係る調整額	△693	△5,535
その他の包括利益合計	104,015	4,137
四半期包括利益	652,784	552,655
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	652,784	552,655
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	17,334,254	10,919,675	5,527,386	3,599,224	675,376	38,055,917	—	38,055,917
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,181	90	115,028	11,580	3,598	132,479	△132,479	—
計	17,336,435	10,919,766	5,642,415	3,610,805	678,975	38,188,397	△132,479	38,055,917
セグメント利益 又は損失(△)	433,189	274,173	274,968	188,769	△89,737	1,081,364	△272,500	808,863

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△272,500千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△270,229千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	17,264,241	11,732,870	5,697,317	3,524,911	671,285	38,890,626	—	38,890,626
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,910	166	120,823	11,716	3,644	138,262	△138,262	—
計	17,266,152	11,733,036	5,818,140	3,536,628	674,930	39,028,888	△138,262	38,890,626
セグメント利益 又は損失（△）	456,532	308,121	296,264	190,963	△83,889	1,167,991	△349,980	818,011

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△349,980千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△350,459千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

「業務スーパー事業」セグメントにおいて、株式会社カワサキの株式の取得に伴い、当第3四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は336,416千円であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。